

くろめほとめきどおりしょうてんがい

久留米ほとめき通り商店街 (久留米ほとめき通り商店街)

福岡県久留米市

地域コミュニティを醸成する 「久留米街元氣プロジェクト」



取組の背景

久留米街元氣プロジェクト の始動

久留米市は、内閣府の認定を受けた「久留米市中心市街地活性化基本計画」を遂行していくなかで、商店街を中心とするソフト事業が断続的に行われ、空き店舗の減少や、歩行者通行量の向上、域内居住人口増加という効果をもたらしてきた。また、2011年の九州新幹線開業などの効果もあり、人口が増加傾向を示している。2016年の複合型文化交流施設「久留米シティプラザ」と併設された、「久留米六角堂広場」のオープンにより、観劇目的や子育て世代の来街も増えるなど客層も変化し、これまでの取り組みのブラッシュアップと、まちなかの魅力と回遊性を高めることが不可欠となってきた。こうした環境変化のなか、①個店の魅力を高める「商業の元氣化」、②集人から集客へ転換を図る「商店街への回遊性の活性・時間消費の増大」の2点を

推進する「久留米街元氣プロジェクト」が始まった。商店街が、市、商工会議所、株式会社ハイマート久留米(まちづくり会社)などと連携して、2009年の「起業家サポート」をはじめとして、「まちゼミ」「100縁商店街」「繁盛店づくり」「空き店舗ツアー」「街なかコンシェルジュ・商店街ツアー」などの事業を、『街元氣 6次化プロジェクト』として、中心市街地商業活性化に取り組んでいる。



専門家と県・市会議所担当者が一緒に課題をヒアリング

取組の内容

久留米まちゼミ の取組

「久留米街元氣プロジェクト」では、タウンマネジメントミーティングを通じて、中心市街地における商業活性化に取り組み、商店街における諸課題を踏まえ連携して、商業活性化の好循環を生む施策を進めてきた。また、「久留米ほとめき通り商店街」で開催される会議には、タウンマネージャーを含め連携する機関が出席、議論を深めている。

こうした体制のなか、「久留米まちゼミ」(得する街のゼミナールを略して「まちゼミ」)が実施されている。「まちゼミ」は、全国約450か所が実施する商業活性化策であるが、久留米市はいち早く開催に取り組み、参加店舗数、講座数、参加者数ともに全国有数の規模感を持つ事業となっている。また、2020年8月には「久留米まちゼミKids」においてオンラインによる開催を試行し

た。好評を得たことから同年12月には、「久留米まちゼミ」をオンラインで実施するなど、コロナ禍においても既存の事業をニューノーマルに適したハイブリット型事業として今後も進めて行く体制を構築している。

さらに、まちゼミにより自助努力の精神を育んだ店主を中心に、専門家による経営指導を行う「商店街繁盛店ネットワーク」事業を追加し、魅力的な店舗を増やしている。



受講中も参加者同士の笑顔が絶えません

取組の成果

地域コミュニティの醸成により、まちの賑わいが回復

実施した取組の効果は、個店が「まちゼミ」で得たノウハウを自店の経営に活かし、自発的な工夫が至る所で見られるようになったことである。料理店は定休日に料理教室を開いたり、化粧品店は美容法を教える講座を開くようになった。個店の取組により、地域の魅力も向上している。

そして何よりも、「まちゼミ」の取組により「参加店と顧客」「参加店と参加店」「顧客と顧客」「地域と参加店」双方向の関係性が高まり、商店街から失われつつあった“地域コ

ミュニティ”の醸成が目に見える形で現れた。また、小中学生を対象とした「まちゼミKids」では、情操教育の効果があると、市が教育委員会に呼びかけ、17,000枚のチラシが夏休み前の終業式に配布された。図書館では「まちゼミ」講座の内容に関連する書籍コーナーが設置された。こうした「久留米方式」の取組により、「まちゼミ」への年間参加者は約4千人と、全国最大級の規模に発展した。

まち全体の賑わいの回復により、新規出店の増加、空き店舗のリノベーションによる利活用、新規店舗の商店街加入の促進で、空き店舗率は、2012年の19.9%から、2021年1月時点で14.0%まで改善している。

実施体制

「久留米街元氣プロジェクト」は、久留米ほとめき通り商店街、久留米市役所、商工会議所、まちづくり会社ハイマート久留米、タウンマネージャーが連携している。商店街の会長、副会長は久留米市中心市街地活性化協議会の構成員でもある。「タウンマネ

ジメントミーティング」と、「ほとめき通り商店街会議」が両輪となり、各種施策を連携して実行することで、中心市街地活性化の好循環を持続的に生んでいる。

キーパーソンからのコメント

コロナ禍でも、「まちあるき」でお店や商店街を楽しんでもらう

商店街では、コロナ禍のさまざまな影響で、来街者が激減するなど厳しい状況が続いています。このため、飲食店を支援するテイクアウトちらしを作成したり、「まちあるき」でお店や商店街を楽しんでもらう取り組みを行ってきました。また、国のGoTo商店街事業に応募し、百円商品を通じて顧客とのコミュニケーションづくりを行う「100縁商店街」、地酒をPRして酒蔵

を支援する「SAKE巡礼」などを開催するとともに、個店の「おススメメニュー」で魅力を発信したりすることで、新たな顧客を得たり馴染みの顧客との絆を深めたりと手応えも感じています。今後とも、商店街や個店同士が協力し、多くの方に支えてもらいながらも地域連携によって乗り越えていきたいと考えています。



久留米ほとめき通り商店街 会長 原誠

商店街の概要

久留米中心商店街は、戦後、福岡県南部筑後地方の中心都市として発展してきた久留米市の中心市街地に位置し、西鉄久留米駅前に広がるエリアにおいて衣料品や貴金属などの買回り品から日用品、生活雑貨店まで約300店舗が軒を並べている。2006年にエリア内6商店街による「久留米ほとめき通り商店街」が設立され、賑わいづくりと販促活動を行っている。家族連れ、高齢者、サラリーマン・OLが一日中楽しめるショッピングゾーンである。毎年6月末から6週連続で開催される「土曜夜市」は、2019年に50回目を数え、商都久留米の夏の風物詩として継続されている。

所在地 福岡県久留米市六ツ門町7-13 株式会社ハイマート久留米内
人口 約30万人(久留米市)
電話 0942-37-7111
FAX 0942-37-7955

URL <http://www.highmart-kurume.co.jp/highmart/notomeki.html>
会員数 130名
店舗数 300店(小売業3割、飲食業4割、サービス業3割)

商店街の類型 複合型
主な客層 家族連れ、高齢者、サラリーマン
/70歳代、30歳代